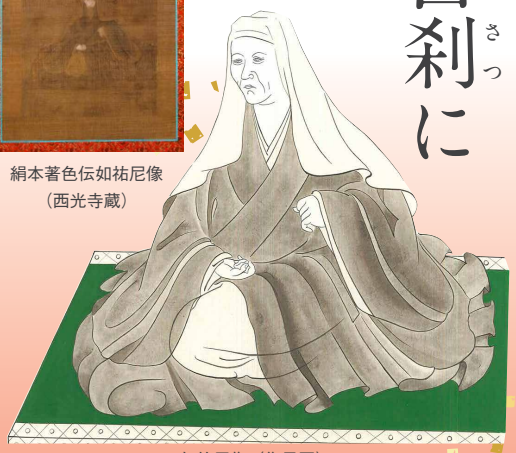
# 浄土真宗の古刹に眠る女性の肖像画の謎

絹本著色伝如祐尼像（西光寺蔵）



如祐尼像（復元図）

鯖江市杉本町にある西光寺。浄土真宗本願寺派中興の祖、蓮如（本願寺8世）の父である存如が創建したお寺です。ここの寺宝に、上畳に右斜め向きに座り、頭巾状のかぶり物を付けた女性を描いた肖像画があります。制作年代は室町時代と考えられ、描かれているのは蓮如の妹、如祐といわれています。この時代の女性が肖像画として描かれることは非常に稀で、風俗的にも絵画的にも極めて貴重なものです。西光寺は、越前における本願寺派の中心として勢力を拡大しましたが、戦国動乱のなかで浄土真宗教団はどのような歴史をたどっていったのでしょうか。

13世紀後半、浄土真宗の祖、親鸞の弟子たちが各地で教団を形成する中、北陸地方にも教団が進出。正応3（1290）年に親鸞の法脈を継ぐ如道が越前に進出して布教活動を始めました。その後、教団は道性・如覚・浄一らに受け継がれ、三門徒派が形成されました。親鸞の娘、覚信尼も京都東山に親鸞の墓所を営み、曾孫である覚如がこれを寺院化して「本願寺」と称しました。

関係図（略図）

- 親鸞
  - （血脈）
    - 覚信尼
    - 覚如
    - 存如
      - 如祐
        - 永存
          - 蓮実
      - 蓮如
  - （法脈）
    - 如道
      - 浄一
    - 道性
      - 善充
      - 如覚

しかし、本願寺の寺勢は振るわず、存如は蓮如とともに北陸への布教に赴くことを決意。宝徳3（1451）年、彼らは丹生郡石田村（現在の鯖江市）に到達して、西光寺を建立しました。存如はその後、約3年間にわたってこの地で教化の基礎を固め、長女の如祐は婿となった永存とともに、西光寺を引き継ぎました。この頃、蓮如は門徒数を増やしていましたが、教義の違いから三門徒派と激しく対立。この対立は越前の政局にも大きな影響を与えることになっていきます。文明5（1473）年になると永存・如祐は4男、蓮実を伴って栃川（丹生郡越前町）に隠居し、永存没後、母子は加賀に赴きました。

天正2（1574）年、一向一揆に参画した西光寺5代、真敬は織田信長軍の越前侵攻に際して蜂起します。北陸道の要衝木ノ芽峠に西光寺丸を築き、織田軍に立ち向かいましたが、翌年8月16日に真敬は戦死、西光寺の堂宇も焼失してしまいました。その後、西光寺は現在地に再建され、江戸時代には立待村の中心寺院として長く尊崇を集めていくこととなります。

さて、冒頭の如祐の肖像画は当初は極めて小振りであったそうです。これは、私的に描かせたものであるという理由のほか、持ち運びの便を考えたためとも考えられています。如祐の生涯については不明なところも多いですが、その姿を伝える貴重な史料として後世に引き継がれていくのです。

## 関連史料・ゆかりの地

### 本願寺派と対立した三門徒派の寺院

誠照寺

如道の教えを受けた道性は願土を求めて横越（鯖江市）に證誠寺を建立します。その後、嫡男の善充が證誠寺を継ぎ、次男の如覚が誠照寺を、三男の道幸が常楽寺（廃寺）を建立しました。彼らは、三門徒教団の中心として戦国の世を駆け抜けました。

【住所】證誠寺：鯖江市横越町 13-43（鯖江 IC から車で 5 分）
誠照寺：鯖江市本町 3 丁目 2-38（福井鉄道西鯖江駅から徒歩 5 分）

参考資料等　『福井県史』通史編３　福井県、鯖江市史編纂委員会編『鯖江市史』通史編上　鯖江市
本山證誠寺史編纂委員会編『真宗山元派本山 證誠寺史』

執筆・協力　鯖江市教育委員会文化課

発行／福井県観光営業部ブランド営業課